

千刈狸の呟き

春の訪れを告げ、見事に咲き誇る梅の花のように、一人ひとりが明日への希望とともに、それぞれの花を大きく咲かせることができる、そうした日本でありたいとの願いを込め、令和が決定された。令には「神の言葉」「良き言葉」という意味があるとのこと。新しい時代を迎え気持ち新たに診療を頑張ろうと思う。今回令和に入ってからあったいつもと少し異なる症例を提示する。

症例その1 70代男性

先日患者Aさんから口止めされた。Aさんは前日から足がとても痛い、歩けないほどだった。だが、奥さんにそのことを隠しているとのこと。理由は、痛風発作の件が妻に知られると、晩酌のビールが美味しく呑めなくなってしまうからと。そもそもビールは呑まれないと知っているが、どうしても手を出してしまうそう。先生、このひとは痛風なんですよ、毎日呑むんだから注意して下さい。」と言われたこともある。Aさんは、妻の手前足が相当に痛いのだが、根性で痛みを耐えている。何と健気な。そこで主治医として彼に提案した。大好きな自宅のワンちゃんに「プリンちゃん」と名前を付けるように。プリンちゃんと呼ぶときに、自分の体の事を思い出してもらおう作戦だ。プリンちゃん、いい名前だとAさんは喜んでた。

症例その2 60代男性

患者Bさん。家で彼はここ数年禁煙したことになっている。ところが大変な事態が発生。今度、夫婦でイタリアに出かけることになったのだ。1週間の二人の旅行。まず最初の12時間、飛行機での禁煙をクリアできるのか、これまでその程度の禁煙もしたことはないと言っていた。更にホテルで禁煙等。妻には喫煙を隠し通したい。正直に妻に話せないのでもいい方法はないか相談された。チャ

～ 令和の診療 ～

蒼 狸

ンピックスを服用すれば禁煙可能、まだ旅行に間に合うのだが。しかし彼が病院にかかれば、きっと奥さんから何故病院にかかっているのか問われるのが必至とのことだった。だからチャンピックス治療は難しい。ニコチンパッチもあるが、パッチが目立ってしまう。この際本人が自力で禁煙を成功させるしかない。奥さんは夫の喫煙に気付いてないふりをしているのだろう。しかし夫は、妻がこれだからと、右手と左手にローマ字のVマークをした。2つのVで「にぶい」の意味と笑っていた。問題は未解決だが、出発の時間だけが迫ってくる。

患者さんのプライバシーを夫婦の間でどこまで守るか、難しい判断だ。主治医として患者さんのために厳しい指導も必要だし、妻への告知も考えられる。しかし二人の患者さんの面子を考え、現時点では妻たちには夫たちの真実は伝えていない。

ここで自分が何を令和時代に求めるかについて表現してみたい。令を「診療ガイドライン」、和を患者さんの「QOL」とする。私はこの両者の調和をとるべき時代を令和と考える。ガイドラインは科学的根拠に基づくもので、これをサイエンティフィックコレクトネスと言いたい。思えば平成時代に言われたポリティカルコレクトネスは空虚だった。前述の症例1, 2の場合、ガイドラインからイエロー～レッドカードを出される状況にある。他方、和すなわちQOLから考えると両症例とも言いたい事が沢山あり、尊重される必要もあろう。ここで調和を取りながら、患者さんに繰り返し病気について説明し、どうすべきか納得してもらおうのだ。この様に、新たな時代には、令と和を重んじその調和を取りながら医療を提供していきたいと考えている。